

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 30 日現在

機関番号：32519

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520693

研究課題名（和文）

古代日本の対渤海交渉と渤海王城との交流回廊に関する歴史環境学的研究

研究課題名（英文）

Research on historic environments of ancient Japan regarding the negotiation with Bo Hai and the trade route to the Bo Hai imperial castle

研究代表者

藤井 一二（FUJII KAZUTSUGU）

城西国際大学・大学院人文科学研究科・客員教授

研究者番号：00139742

研究成果の概要（和文）：

古代日本と渤海の交渉状況について王城の変遷段階ごとに把握し、1、渤海早期の居城と王城（中京・東京城）の位置する延辺地区と日本を結ぶ交流が図們江・海蘭河・布尔哈通河の水路・沿道を主な回廊としたこと、2、中期・後期の上京龍泉府が牡丹江とその流域の交通路によって「日本海」に接する港（津）に接続していた様相・特性を、歴史的、考古学的に究明した。

研究成果の概要（英文）：

The negotiation situations between ancient Japan and Bo Hai were evaluated for individual periods of relocation of imperial castles. The following findings are elucidated in historical and archaeological ways:

1. The interactions between Japan and Yanbian area (Bo Hai), where the residence castle and the imperial castles (Zhongjing and Dongjing castles) were located during the early period of the Bo Hai, were promoted by the routes of the channels and roads around Tumenjiang, Hailanhe, and Buerhatonghe.
2. Shangjing-Longshenfu during its middle and latter periods was connected to Japanese harbor (called "Tsu") facing "Japan Sea" via the routes of Mudan Jiang basin.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学（日本史）

キーワード：渤海国・渤海使・上京龍泉府・中京顕徳府・西古城

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、中国社会科学院・吉林省文物考古研究所・黒龍江省文物考古研究所から渤海王城に関する最新資料が公刊されたのを踏まえ、渤海王城と古代日本の交流内容を歴史的環境に重点をおき実態面から再構成することが可能となった。

(2) 研究代表者は、『和同開珎』（中公新書、1991年）を執筆した際に、渤海国上京龍泉府址発見の和同開珎銭をめぐって日本・渤海国交渉の緊密性を論究して以来、海と陸が結ぶ「渤海路」「日本道」の経由した王城と渤海時代の歴史文化遺産に注目してきた。

## 2. 研究の目的

(1) 渤海使・遣渤海使の往来と発着拠点となる渤海王城の関係について、王城（東牟山城・中京・上京・東京城など）の段階ごとに整理し、交流の実態を把握する。

(2) 日本・渤海を結ぶ回廊が「もう一つの遣唐使」として機能した側面を明らかにし、その行程に北陸道地域が果たした歴史的環境を実証的に解明する。

## 3. 研究の方法

(1) 図們江・琿春河・布尔哈通河・牡丹江など主要河川流域と龍頭山・六頂山麓、図們江口と渤海王城を結ぶ陸路沿いに分布する文化遺産の把握に努め、王城址・王族墓・山城の時代背景、王城・王権の変遷と日本の交流関係を検証する

(2) 中国東北地域の渤海遺跡の資料調査と景観画像の収録をすすめ、日本・渤海の交流回廊と周縁文化遺産を包括的に把握し、資料整理と画像データを収録する。

## 4. 研究成果

(1) 渤海早期王城＝中京顕徳府址の位置する吉林省和龍市西古城周辺の海蘭河や龍頭

山を中心とする地勢・環境を実見し、渤海第3代王大欽茂の第4王女貞孝公主墓のある龍頭山は宮城址が確認されている中京顕徳府址から地理的に近く、多くの王族墓を造築できる長大な山丘であることを確認した。

(2) 中京城と龍頭山の近くを流れる海蘭河は、布尔哈通（ふるはとん）河・図們（ともん）江を経て日本海に通じ、渤海時代における中京顕徳府の交通・物流環境に重要な役割を担ったことを、遺跡分布と地勢面から明らかにした。

(3) 延辺地区の王城（中京・東京城）・王族墓は、中国東北部の図們江流域に分布し渤海建国段階の「旧国」の中枢部に位置し、同河川の水路と河川沿いの道路が日本海に接続する「日本道」「渤海路」に相当する様態を把握できた。

(4) 資料調査では、中国黒龍江省寧安市の渤海上京城址・同遺址博物館、鏡泊湖畔の渤海山城、吉林省延辺自治州琿春市の図們江流域、黒龍江省鶴崗市にある黒龍江流域博物館の巡見によって、渤海遺産の現地景観と歴史環境の画像を収録した。

(5) 拙論「渤海早期王城と古代日本の対渤海交渉」（『東アジア地域の歴史文化と現代社会』所収）において、①渤海の建国・王城と交流環境、②旧国と日本・渤海間交流、③中京顕徳府と日本・渤海間交流に焦点を当て、渤海・渤海靺鞨・高麗の表示を主体領域・主体種族・黒水靺鞨との関係から解釈を試みた。

(6) 3年間の調査・研究活動に参画した研究協力者を含むネットワーク「東亜多文化交流学環」によって、共同論集『渤海交流の世紀と文化遺産』（仮題）の刊行を企画した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①藤井一二「渤海早期王城と古代日本の対渤海交渉」『東アジア地域の歴史文化と現代社会』桂書房、2012年1月、50-63頁。査読無。

②藤井一二「高志国の成立と展開」『古事記年報』54号所収、2012年1月、1-26頁。査読有。

③藤井一二「中国発見の日本〈和同開珎〉銭と国際交流」『東アジアの交流と地域展開』所収、思文閣出版、2012年6月、3-17頁。査読無。

[学会発表] (計 6 件)

①藤井一二「遣唐使と渤海使」2010年9月16日 大連・遼寧師範大学歴史文化旅遊学院

②藤井一二「古代日本と渤海使者の交流」2010年11月3日 延辺大学・図們江學術論壇 2010

③藤井一二「高志国の成立と展開」2011年6月18日 2011年度古事記学会全国大会

④藤井一二「古代日本和中国東北交流」2011年7月12日 中国鶴崗市・黒龍江流域文明論壇

⑤藤井一二「渤海早期和古代日本的交流特性」2011年8月22日 図們江學術論壇 2011

⑥藤井一二「古代日本与高麗・渤海交流」2011年11月16日 大連大学東北史研究中心

[図書] (計 3 件)

藤井一二編著『東アジアの交流と地域展開』思文閣出版、2012年、238頁。

共著『東アジア地域の歴史文化と現代社会』桂書房、2012年、分担50-63頁。

藤井一二著『天平の渤海交流』塙書房、2010年、224頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

ニューズレター『東アジアの交流と文化遺産』NO1~NO11、成果報告書に収載。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 一二 (FUJII KAZUTSUGU)

城西国際大学・大学院人文科学研究科・

客員教授

研究者番号: 00139742

(2) 研究分担者 ( )

研究者番号:

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号: